【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	熊本県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	熊本県阿蘇郡西原村立西原中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	３	１	８	１８
生徒数	７３	６６	８５	２	２２６	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

生徒一人ひとりの実態をつかみ、「確かな学力」の向上を推進する指導方法と導体制の工夫・改善

２．研究内容と方法

（1）　実施学年・教科

全学年・全教科で実施。ただし、取り組みの柱である少人数指導は数学科は全学年で実施し、英語科と国語科は一年生のみで実施している。また、本校では二年生の理科で TT の実践も行っている。

（少人数および TT の実施学年・教科およびその理由）

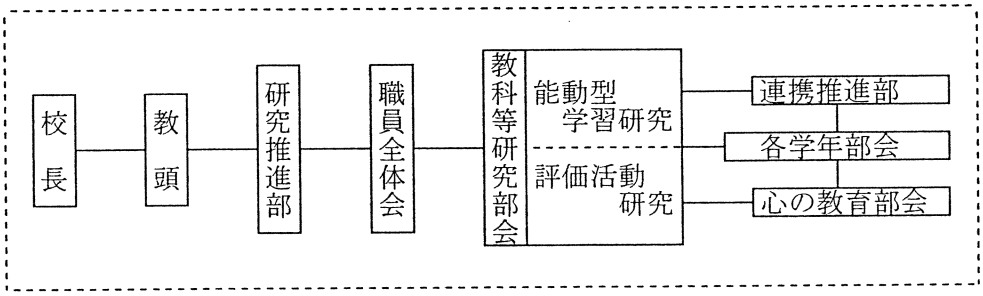
・全年生：数学
　生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。
・一年生：国語
　全ての教科の土台を成す教科であるため。
・一年生：英語
　生徒の理解の状況に差が出やすい教科であり、英語学習の最初の段階で苦手意識を持たせないようにするため。
・二年生：理科
　教科の特性上、実験が数多く行われる学年であり、よりきめ細かな指導を行うため。

（2）　年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ 生徒一人ひとりの実態をつかみ、「確かな学力」の向上を推進する指導方法と導体制の工夫・改善 ○　研究の見通し 年度前半は、他の研究推進校や外部講師を招いての理論研究に費やした。年度後半は、その理論研究をもとに各教科においてそれぞれの担当者が実際の授業での実践を積み重ねている。今後その実践の評価をもとに、来年度の取り組みの改善を図っていきたい。 ○　研究の内容・方法 研究の内容・方法としては、その実践の柱を次の三点としている。 ・個別化：評価活動の工夫（多様な評価方法の研究と指導との一体化） ・専意化：個に応じた指導の工夫・・（少人数指導および TT の実践） 分かる授業の実践・・・・（メリハリ授業の工夫） 学ぶ意欲と態度の育成・・（授業での共通実践） （学習ガイドブックの作成） （朝自習の工夫） （家庭学習の定着化） ・連鎖化：コミュニケーション能力の育成・・（小集団活動の工夫） 地域との一体化・・・・・（総合的な学習の時間での交流など） PTA との共通理解・・・・（情報の共有）

平成16年度	○　テーマ 平成１５年度テーマを大筋で継続の予定（サブテーマを設け研究の絞り込みを行いたい） ○　研究の見通し ・前年度の実践の反省をもとに若干の軌道修正を図っていく予定。 ○　研究の内容・方法について ・少人数指導およびティームティーチングによる実践の改善（習熟度別等） ・授業における共通実践事項の徹底 ・三年間を見通した朝自習の系統化 ・家庭学習の質の向上 ・小集団活動の活性化 ・選択教科の改善 ・放課後チューターの活用の工夫

(3)　研究推進体制



昨年度までは教科等研究部会を、能動型学習研究部会と評価活動研究部会の二つの部会にわけ、教科の授業者をそのいずれかの部会に配置する体制をとっていた。今年度はその研究をもとに、授業者一人ひとりが能動型学習について、さらには評価活動についての実践をかさねるべく、教科等研究部会の一つにまとめている。また、今年度の特色としては、「放課後チューター制度」を活用していることも挙げられる。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○評価活動の工夫について
・評価活動を日々の評価、学期毎の評価、年度ごとの評価で分類し、計画的な実践を心がけたが、生徒の評価を通じて私たち教師自身の実践の振り返りができ、それが次の実践に生きるようになってきた。

○個に応じた指導の工夫について
・数学科では二・三年生においては年度当初から、一年生については一学期の途中から習熟度別のコース編成を行っているが、生徒の個人差が狭くなり、発展的な問題により多く取り組めるようになった。また、生徒の授業への真剣な取り組みも増している。
・英語科や国語科については、一年生での今年度からの少人数指導であるため学力についての効果を定量的に評価する資料は十分に揃ってはいないのが現状であるものの、発表する機会が増える等、話すこと、聞くことでの活動が増えたことで理解が高まったと実感できる。また、理科においても今年度からのTT指導であるため、学力についての効果を客観的に評価する資料は十分に揃ってはいないが、教師への質問が適宜に行えることから、疑問や不安が解消されて意欲のある活発な学習が展開できるようになった。

○学ぶ意欲と態度の育成について
・授業における共通実践事項を授業者全員で取り組んだが、他教科の実践を互いに学び合い、さらなる指導法の工夫・改善に努めようという姿勢が教師間に高まってきた。
・始業時の態勢づくりが定着してきた。自分で前時の学習を確認して待つ生徒が増えてき、授業の導入が落ち着いて迎えられる雰囲気がある。

・課題設定の工夫が進み、生徒にとっては、その時間が何を追究していく時間なのか分かりやすくなったと概ね好評である。
○コミュニケーション能力の育成について
・学びの土台として集団づくりが必要だとの認識から、各学年・各学級で小集団活動を重視した取り組みができた。その結果として生徒一人ひとりがお互いの良さに気づくと共に、話し合いの力にも向上が見られる。
・総合的な学習の時間の取り組み等を通じて、地域の異年齢の方々と接し，交流させていただく機会が増えたことで、コミュニケーションの技術のみならず、積極的にかかわっていこうとする意欲面での向上がみられるようになった。

2．今後の課題

○授業の工夫・改善
・生徒の発想を大切にした授業展開をめざした授業づくりをめざしているはずが、理解を高めようとする気持ちから、教師主導の授業になってしまうこともあった。徹底指導と能動型学習のメリハリのある授業づくりについて、更に研究を深める必要がある。
○朝自習の系統化
・昨年度からの取り組みで、朝自習の改善が図られその成果は上がりつつあるとの自負はあるものの、三年間を見通した系統性は確立されていない。今後、より高い効果を上げるためにも各学年での取り組みに系統性を持たせたい。
○小集団活動の活性化
・授業の質を高めていくために必要なこととして、学級の集団づくりがある。また、本校の現状として各学年に不登校傾向の生徒がおり、その改善を図っていくことは急務であると考える。そのような理由から、支え合い、学び合い、高め合う集団づくりを図っていくことは欠かせない取り組みであり、その取り組みの土台として小集団活動の充実があると考える。
○選択教科の工夫・改善
・選択教科については、生徒の選択の幅を広げるために開設数を極力増やす努力をし、生徒の要求を一応満たせたという自負はある。しかしながらその中身を問うた場合、週に一度の２時間連続の時間が有効に活用できているのか一考の余地はある。時間設定の工夫等、改善を図ってみたい。
○放課後チューター制度の活用方法の工夫・改善
・今年度から放課後チューター制度を利用しているが、本校では理解不足の生徒への補完指導の充実を目的に取り組んだ。結果として苦手教科の学習に対する意欲の向上や、基礎基本の理解につなげることができたし、何より不登校傾向にあった生徒が、放課後チューターの時間を心待ちにして、その日に限っては登校できるようになりつつあるという現実がある。ただ、取り組み始めて一年目でもあり、常に試行錯誤を重ねる状況でもある。今後は参加対象の生徒を若干拡大したりするなど、更に有効な活用を考えたい。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

＊　生徒の学習状況の変容を捉えるために、定期的に行っている各種調査などについて、調査の目的、実施内容、時期等を記すこと。
○全生徒による学校評価
・学校教育の改善のために、その手がかりを生徒に求める目的で実施している。質問項目は五つであり、①学校は楽しいか、②相談する人はいるか、③授業は分かったか、④部活動で困ったことはないか、⑤家庭学習状況について、である。５月、７月、１２月に実施し、３月にも予定している。毎回質問項目は同じであり。その数値の推移を確認し、教育相談に生かしている。
○各種テスト
・ゆうチャレンジテスト、まいチャレンジテストの実施。その他にも学力テストや県版テストも五教科で実施している。特にゆうチャレンジテストについては、その結果を指導に反映させるためにも時間的な余裕が必要であるとの反省から、今年度は三学期の早い時期に実施した。現在その結果を分析しているところである。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

＊　研究発表会開催予定　日時：平成１６年１１月１２日
場所：本校

対象：県内教職員等
会の目的：研究の総括と今後の実践のための方向性を考えるため。

＊　研究成果普及のためのＨＰ作成、パンフレット作成等の実績（学校としての創意工夫を含む）及び今後の予定については、１１月の発表に向けてパンフレット等の資料を作成予定。

＊　フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績又は予定については、対外的には特に個人としての予定はしていない。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　■　１５年度からの新規校　□　１４年度からの継続校

【学校規模】　□３学級以下　□４～６学級
■　７～９学級　□　１０～１２学級
□１３～１５学級　□１６学級以上

【指導体制】　■　少人数指導　■　Ｔ．Ｔによる指導
□ その他

【研究教科】　■　国語　■　社会　■　数学　■　理科
■　外国語　■　音楽　■　美術　■　技術・家庭
■　保健体育■　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■　有　□　無